



原発ゼロ

住民本位の復興を



原発ゼロと住民本位の復興を求める8・30ふくしま集会



原発ゼロと住民本位の復興を求める 8.30 ふくしま集会



●タイムテーブル

10：30～12：00 テーマ別セッション

セッション① 「2011.3 原発災害から 15 年を経た今、住民本位の復興とは何かを考える」

講師：今野 順夫さん（福島大学元学長）

会場：1 階 第 1 会議室

ふくしま復興支援フォーラムを開催してきた今野順夫さんと一緒に、住民本位の復興とは何かを考えます。

セッション② 「再エネ・省エネ普及で原発に依存しない社会へ転換するために」

講師：明日香 壽川さん（東北大学特任教授・名誉教授）

会場：1 階 第 2 会議室

AI 需要で電力が足りなくなる？再エネ・省エネがひらく展望を、明日香壽川さんと学びます。

セッション③ 「全国の運動交流・次世代継承のひろば」

会場：3 階ホワイエ

原発をめぐる運動をすすめる全国各地の若い世代が大集合。経験や思いを交流します。

13：00～15：30 全体集会

開会宣言

連帯あいさつ・メッセージ

基調報告 ～東京電力福島第一原発事故から 15 年－現状と課題、たたかいと展望～

報告：ふくしま復興共同センター 代表委員 野木茂雄

福島からの発信 ～あのとき・それから・今・これから～

住む場所や生業、年齢などの違いによってさまざまな困難や思いがありました。それぞれの立場から過去・現在・未来を発信します。

- | | | |
|-------|-------------|-------------|
| ①原発県連 | ④生産者として（農業） | ⑦新潟のとりくみ |
| ②生業訴訟 | ⑤廃炉 陳情・請願 | ⑧再エネ・省エネ |
| ③津島訴訟 | ⑥帰還について | ⑨子どもを守るとりくみ |

つなぐ・つなげるステージ アピールの提案

閉会あいさつ

●アピール（案）

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から 15 年 5 か月が経った。

長引く避難生活は心身への大きな負担となり、震災関連死と認定された方がいまだに増え続けている。壊されたつながり、ふるさと、くらしは簡単には戻らない。各種調査で「戻るつもりはない」と答えた避難者の、その選択肢に込められた思いは様々だ。国や福島県が発表する避難者数¹は、避難指示の対象となった 12 市町村が数える避難者数²とだけでも 2 万 8 千人以上の差が生じている。

このような実態を無視して、政府は原発推進の「第 7 次エネルギー基本計画」を閣議決定した。それ以降、関西電力美浜原発では新設におけた調査を開始、東京電力柏崎刈羽原発は再稼働し、北海道電力泊原発でも再稼働に向けて動き出した。中国電力島根原発ではプルサーマル発電が進められ、国は廃炉を決めた原発の建て替え目標を事故後初めて提示するなど、原発の「最大限活用」が一気にすすめられている。そのような中で中部電力浜岡原発でのデータ不正が発覚した。各地で大きな地震が続く中、国と電力会社は、福島の事故を経験してもなお、安全よりも利益を優先し、原発を最大限活用するという。

あれから 15 年。

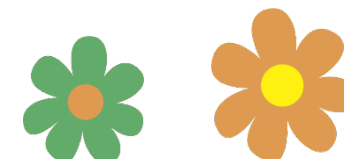
あの時生まれた赤ちゃんは高校生に、ランドセルを背負っていた子どもたちは社会人に、3.11 が卒業式だった中学生は結婚や子育てを選択できる大人になった。人は人となつながら生きていく。すでに大人だった者たちとともに力を合わせ、伝統をつなぎ、元の福島、いや、それ以上の福島をつくろうと懸命に生きている。

水、土、廃炉。段階や思惑でその呼び方が変わり、処理や最終形態についても今は一致していない。ていねいに議論を重ね、押し付けることなく、強行することなく、みんなが納得のいく方法での解決と、そのすべてに国と東京電力が責任を持つことを求める。進んだことも、進まないことも、私たちはその姿をありのままに発信し続けよう。

いのちと原発は共存できない。原発事故を二度と繰り返させない。その最大の保障は日本から原発をなくすことだ。この 15 年の歩みと教訓を未来へつなぎ、住民参加型の再エネ・省エネ推進で原発に頼らない社会を実現しよう。いのちが大切にされる、希望ある社会をともにひらこう！

2026 年 8 月 30 日

原発ゼロと住民本位の復興を求める 8.30 ふくしま集会



¹ 福島県災害対策本部「平成 23 年東北地方太平洋沖地震による被害状況速報」（第 1804 報 令和 8 年 6 月 8 日現在）によると、県内避難 3,936 人、県外避難 18,684 人、不明 5 人、計 22,625 人

² 避難指示が出された 12 市町村に「しんぶん赤旗」編集部が今年 2 月 28 日～4 月 1 日に聞き取った避難者数の合計 51,491 人